５－９　ムサハラバード被災地域視察

７時半にホテルを出発し、最も被害の甚大な地域の１つである、カシミール州の州都ムサハラバードに向かった。ムサハラバードは元々、山紫水明の地でパキスタンでも有数のリゾート地である。被災地までの道のりの大半は山岳地帯を抜けるものであり、途中に何箇所もがけ崩れ跡があった。

午後１時、ようやくムサハラバード到着。街の大通には国内外からの救援トラックが多数行き交っていた。歩道には家を失ったと思われる被災者が援助品を求めて立っていた。大統領ゲストハウス、政府や軍隊などの公共施設が軒並み倒壊していた。こうした行政機関の壊滅的状況によって、中央政府に被害状況が伝わらず初動の遅れにつながったようだ。

ムサハラバードはニラム川の両岸に沿って町並みが形成されている。川に面した建物はがけ崩れにあい、悉く瓦礫と化していた。川べりに１０強のテントが張られていた。被災者数からすると。決定的にテント数が不足している。瓦礫の中には行方不明者が今でもいるが、捜索･救出は地理的事情や救助人材不足から十分に取り組まれていない。町の壊滅的被害の中、生き残った被災者が最も求めているのは、避難施設やテント、毛布である。

軍病院が倒壊し、同じ敷地内に設営された医療テントを視察した。フランスのＮＧＯ医療チームが運営していた。応急措置としてのモルヒネ、抗生物質の投与や簡単な手術を行うとのこと。重症者はイスラマバードへヘリコプターで搬送されるそうだ。この病院を出るとき、トルコからの救助隊に家族の死体撤去を頼んでいる被災者に遭遇した。ムサハラバード視察の最後に、川べりで野宿生活をしている被災児童たちに用意していた御菓子を配った。

土砂崩れ痕

全壊した政府庁舎

医療テントの中